ふくろう新聞

＜発　行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551
ホームページ
http://hyoufuku.main.jp/
メール
info@hyoufuku.main.jp

社団法人高知県聴覚障害者協会からのメールで、同協会など5団体等の強い要望を受け、高知県が聴覚に障害のある高齢者に対応した養護老人ホーム(定員30名)の整備を決定。公募により社会福祉法人土佐平成福祉会に決定したとのことです。平成26年より工事着工、平成27年3月竣工の予定です。

初めて立候補　新会長に　黒崎時安さん(85歳)を選出
女房役の副会長は谷妙子さん(80歳)、北風章子さん(83歳)

左から長田さん、勝楽さん、北風副会長、北川さん、黒崎会長、谷副会長、福島さん、竹邊さん、土居さん

6月29日午後1時30分からふくろうの郷地域交流スペースで開催された入居者自治会総会では、役員に選ばれた方々の話し合いで、会長には北風章子さんの後任として黒崎時安さんを選びました。

総会の出席者は31人が元気に出席されました。援助職員3人と盲ろう通訳者5人が応援しました。

司会は松崎惠子さん(78歳)です。職員に助けられながら司会を務められました。一年間のふくろうの郷での暮らしづくり・行事の様子は写真が大画面に映され、出席者全員で振り返りがされました。

会計の承認と休息の後、メインの役員改選に入り、役員選出では、互いに名前を挙げあったり、にぎやかなひと時の後、立候補者が舞台に勢ぞろいして自己紹介し全員が拍手で選ばれ、その後会長・副会長・会計・ユニット代表が決まりました。

7月21日には参議院選挙・兵庫県知事選挙・淡路市議会選挙などが行われ施設でも不在者投票がされます。意見を言い、選び、運営に参加していく体験をさらに積む援助を大切にしていきたいです。

(生活担当…足立・和田・宮崎・大矢施設長)

新役員は次のとおりです。

会　長…黒崎時安さん
副会長…谷　妙子さん
副会長…北風章子さん
ユニット代表
花・木…北川他久美さん
　　　　福島豊子さん
星・海…竹邉正晴さん
　　　　土居文子さん
月・川…勝楽佐代子さん
　　　　長田道子さん

恒例の梅干し作り

今年度も中川原産のとっても香り高い梅の恵みで、恒例の梅干し作りをしました。

中川原市原青空会の平野さんのご指導を頂きながら、入居者も昔の経験を思い出し作業を進めました。

梅のヘタをとる作業が少し難しかった様でしたが、洗った梅をペーパーで拭き取った後、樽に梅と塩を交互に入れ最後に焼酎を入れて昔ながらの梅干し作りの完成となりました。

また、ふくろうの郷を応援してくださっている方より、自宅でとれた梅を頂いたので、その梅に氷砂糖をいれて梅シロップにしました。ボランティアの湯川さん、関西看護大学の実習生も入居者とお話しながら一緒に楽しく作りました。

今年の梅干しのできが待ち遠しいです。10月の「ふくろうふれ愛まつり」で希望者におわけするのが楽しみです。

(生活援助員：野地佳那江)

いま介護の現場では

介護職員による医行為（胃ろう・吸引等）が認められたが

「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正で、介護職員の医行為（胃ろう・吸引等の特定行為）が認められました。法律が施行されても、研修を受ける体制や整備が不十分で、研修に要する費用や研修体制など課題山積です。

医行為ができる職員とできない職員が存在

介護職員が医行為を行うには定められた研修を終了しないと行えません。

平成24年4月までは、経過措置として指導者研修を受けた看護師による研修受講で医行為（胃ろう・吸引など）ができますが、4月以降に就職した介護職員は医行為ができません。そのために、現場には医行為ができる職員とできない職員が存在し、医行為ができる研修の受講が必至です。

施設でも研修申込みをしていますが、定員も少なく必要な研修が受けられません。そのために、介護職員が退職すると医行為ができる職員が少なくなり、実際に現場では一緒に勤務に入った職員が、医行為ができない職員同士が重なることが多々あります。

◆例1：夜勤明け職員と早出職員がどちらも胃ろうができない場合

他部署に応援を頼んでも、どこも職員は2人ずつなので時間的に入居者1人だけしか胃ろうできません。他の胃ろうが必要な入居者は、日勤職員が来るまで待つしかありません。通常は7時に胃ろうを開始しますが、日勤職員を待つと8時半開始と遅れ、入居者に待っていただく状況です。

◆例2：夜勤職員が全員医行為ができない職員だった場合

夜間に痰が絡んだりして吸引が必要になった時、夜間担当の看護師に連絡して来てもらうしかありません。

医行為ができる職員とできない職員が一緒に勤務に入った場合は大丈夫ですが、それでもできる職員の負担が増え、できない職員の気遣いなど不安とストレスが増大します。

淡路でも受けられる研修体制の充実を

医行為研修は、研修時間・期間も長く淡路島から神戸へ行くのは大変です。淡路島で研修が受けられる機関・場所を早急に検討してほしいと関係団体にも要望しています。

医療行為を伴う高齢者の生活支援を行うことを前提とする特別養護老人ホームであればこそ、介護職員はもとより看護職員の適正な配置・増員が必要と考えますが、介護職員には絶対に必要な研修なので職員全員が研修を受けることができるように改善してほしいです。

（生活支援係：田中）

地震からの後始末　～おたがいさま中川原6月の依頼より～

今月で中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター開所から1年になります。

4月からおたがいさま中川原への依頼・問合せが増えており、中川原町内の皆様に「おたがいさま中川原」の活動が知られるようになったことを実感しています。

ふくろう新聞の読者の皆様に6月に応援を行った依頼をひとつお話ししたいと思います。

4月の淡路島を震源とした地震の影響で家を修繕した際に出た瓦礫や廃材を、洲本市が指定している処理場まで運んで欲しいという依頼でした。

依頼者は一人暮らしの女性で、出てきた瓦礫や廃材を軽トラックなどへの積み込み、さらに処理場まで運ぶことが困難な状況にありました。

そんな時、台風が発生したことを知り、近畿地方へ向かって来れば、強風にあおられた瓦礫や廃材が辺りに散乱するおそれが出てきたため、「おたがいさま中川原」への依頼となりました。幸いにも応援してくださる方はすぐに見つかり、依頼のあった翌日に応援できました。

瓦礫は2ヶ所に山積みされており、瓦、土壁の山、木材、トタン屋根など主に木が混ざった山に分けられていました。

応援者は木材の山から片付け始め、自分の軽トラックへ積込み始めました。終わると、次に土塀、瓦の積込みへ。

しかし、軽トラックの荷台1回分の積込みでは終われないと判断、2回に分けて運び出すことになりました。

女性が一人で運び出すにはとても困難な量と重さでした。

処理場へは依頼者から事前に連絡しており、持ち込みはスムーズに行えました。

瓦礫、廃材の積込みから処理場へ運び終わるまで男性2人で約2時間30分の応援活動でした。

依頼者から「中川原にこんな便利なものができてありがたい」と感謝の言葉をいただきました。

（担当：神代）

おたがいさま中川原とは

地域の困っている人（年齢制限はなし）を基本的に地域の人々で助け合う有償ボランティア活動です。

※今号掲載予定だったふれあいセンター２期工事の概要については、来月以降に改めてお知らせします。

花木ユニット外出

5月31日に花木ユニットのみなさんでお出かけしてきました。

心配されたお天気は良好でさわやかなお出かけ日和でした。

昼ご飯をお店で食べて、車に揺られて淡路人形浄瑠璃を観る予定だったのですが、昼食を食べる時になってお1人車に乗り忘れたことに気づきました。

お店は近かったのですぐにお連れ出来ましたが、楽しみにされていたのに申し訳ないことをしてしまい、後で厳しい反省会をしました。

無事全員揃ったところでお昼ご飯を食べました。にぎりずしセット、うな丼セット、それぞれミニうどん付です。みなさんお好みの物を召し上がられ、いいお顔をされていました。

お腹がいっぱいになったところで淡路人形浄瑠璃館に向けて出発です。

現地で昼食が別メニューだった2名様と合流し1時間人形劇をご覧になりました。

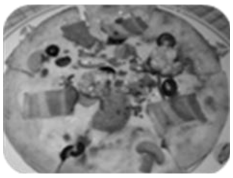
終わった後は恵比寿様の人形と記念撮影をしたり、お土産を買われたりいつもとは違う雰囲気を楽しまれていました。

（生活支援係…北野）

▲無事に全員そろって楽しいお食事♪

ふくろう大学25年度

～料理講座の年間予定～

4月　お花見弁当	5月　どんぶり
6月　ピザ 	7月　アイスクリーム
8月　天ざるうどん	9月　秋刀魚
10月　秋の味覚弁当	11月　飲茶
12月　お鍋	1月　おでん
2月　巻き寿司	3月　お赤飯

いつもご支援　ありがとうございます。

かねてから交流のある東京・大田区聴覚障害者協会と羽田手話サークルの白鳥様、鈴鹿様から運営費の捻出にとかわいい手作りペンケースをたくさんいただきました。7月13日にも交流に来られます。

高知県安芸市の上村由子様から毎年この季節になすびが届けられます。
おいしそう！

1つ250円でご協力いただいています。

淡路聴力障害者協会の上内亮さんはいつもきれいに草刈に精を出してくれます。
冷たい飲み物を用意しますので、一服してくださいね。

おのころの家
〒656-0025
洲本市本町３丁目1-10
清水マンション1F
TEL・FAX　0799-26-0956

野菜作りが誇り、岸野みよゑさん（80才）

美術作品展
（淡路文化会館）

　弟さんご夫婦と3人暮らし。南あわじ市三原平野の農家で野菜（レタス・キャベツ・たまねぎ）や米作りと、大規模に農業をされています。子どもの頃から両親と一緒に野菜作りを手伝って学ばれました。私の家も少しばかり米作りをしていますので、「もう植えたか？」とか、「もう刈りとったか？」とその時々に心配して聞いて下さいます。
　おのころの家には、平成21年11月から週2回（水・金）通所されています。農繁期には、手伝いをするからとお休みされます。「足が痛いねん」といいながらも、忙しいと手伝わねばおれなくなる岸野さんです。人生の誇りなのでしょう。

いつも笑顔で　手作りのピエロ

　おのころの家では、手作業としてピエロや事故防止の帽子を作っておられます。
　直径2センチや3センチの布を縫い縮めていくつも組み合わせてピエロ人形を作ったり、コーヒーのフレッシュの空を利用して紐を巻いていって帽子の形にしたりと、とても細かい作業ですが、コツコツと一生懸命に作られています。

ボランティアとのふれあい　帽子作りのお師匠さん

　サマーボランティア体験スクールや洲本市社協のボランティアで学生さん達が来られた時も、親切にわかりやすく、教えてあげていました。できあがった帽子を見て、学生さん達もとても喜んでいました。

かわいい帽子が出来ました。

（支援員　藤本）

おのころ屋
〒656-0025
洲本市本町7丁目3-41
営業日時：月～金 9:00～18:00
TEL・FAX　0799-22-6133

知的・精神障害者施設の系列カフェで

　6月に入り真夏日や雨で商店街も暇になりました。「おのころ屋」も少しのんびりです。休憩時間に暇な時に他の施設の見学に行こうと話が出ました。17日は淡路のコパン、24日は大阪のアイラブ工房にしました。

おのころ屋のスタッフ　初めての施設見学

　17日、まずは「コパンえんぎょうじ」でランチを頂きました。メニューをFAXしてもらい前もって予約しておきました。お店に入るなり、「おしゃれで明るく素敵やね！」「わぁ～！」と連発。ランチも美味しいし、サラダのドレッシングも3種類から選べます。お腹がいっぱいになったところで職員の方が施設の説明をして下さいました。特別にグループホームの見学もさせて頂き感謝しております。次は「コパンじとほ」へ移動してお茶しました。外観がピンクのテントで可愛くて、お店の中も明るく、パンやお菓子が所狭しと並んでいました。厨房はガラス張りなので、作業の様子を見ながら職員の方が詳しく説明をして下さいました。おのころ屋のメンバーも刺激を受けたようで、自分たちの仕事と重ね合わして色々と質問していました。

大阪のアイラブ工房　素敵なパン設備

　24日は8時半出発で「アイラブ工房」に行きました。3階建ての立派な施設で、前施設長の辻本様が詳しく説明をして下さいました。2階の作業場では多くのメンバーさんたちがそれぞれの能力に合った作業を頑張ってしていました。残念ながらパンは焼き終わったところだったので作業の様子を見学する事は出来ませんでしたが、設備が整っていたのには感心していました。その後はのんびりと1階の店舗でパンの昼食を済ませました。おのころ屋のパンと比べ「負けてないね～」「クッキーの種類ではね～」などとライバル意識も。

グリコピア神戸　お菓子円の国

　午後は神戸にもどり、グリコの工場見学をしました。広い工場で全てオートメーションで作られるお菓子ですが、不良品は人間の手でチェックしているのにはちょっと安心しました。とにかく賑やかな道中で楽しい日でした。二つの施設を見学して、スタッフも私もそれぞれの良いところを吸収できて本当に感謝しております。

（職業指導員　岡本）

6月24日、グリコピア神戸で
おのころ屋のスタッフたちです。

淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館３階

一人ひとりが「安・心」して「自信」と「希望」を持てる社会をめざして
～兵庫県聴覚障害者実態調査始まる～

兵庫県聴覚障害者協会が実施主体となり「聴覚障害者の生活の実態を知ろう」と、日本財団の助成金を受けての調査が兵庫全域で取り組まれています。淡路地域ではふくろうの郷入所者、在宅の方あわせて150人を対象に調査が進められています。在宅の方は、淡聴協役員と健聴者18名が調査員となり、チームを組んで各戸訪問してお話しをお聞きしています。

制度をもっと充実してほしい

淡路市在住の花立薫さん（65歳）。風邪をこじらせ、小学校高学年から聞こえが低下しました。三十代から補聴器を装用するようになり、20数万円もする補聴器を何台も購入していました。センター設立後職員より制度の利用を勧められ、1割負担となりとても助かった、と語ります。しかし、耳垂れのため2、3年で補聴器がつまるため耐用年数の5年間も使えず、途中で自費購入しています。やはり補聴器はそれぞれの個人の状況により柔軟に交付できる制度にしてほしい、と声を大にして云われます。。家業の建設業は奥さんと細々と経営しているものの、今は仕事も少なく収入はわずかです。耳や心臓の病気のため、わずかの年金も医療費や補聴器購入のために費やしてしまう。生活費を切り詰め、同居している娘さんからの援助で何とか生活しているとのことです。

洲本市在住の難聴者の方も長い間補助制度を知らず、「補聴器を購入するために働いていたようなものだ」と言われました。制度について周知されておらず、障害を持っていると多大な出費が嵩み、生活費を圧迫し不利な生活を余儀なくされていることがわかります。また、聞こえないことの理解の少なさから、福祉サービスも利用しにくく、人との関わりや地域との交流も激減していることも特徴的なことです。

ろう者の人生と暮らしの実状から学ぶ貴重な機会

ろう者を対象とした調査チームでは「これこそろう者から学ぶ貴重な機会。悲惨な過去があっての今の生活なんだ。こんなにじっくりとお話しを聞けたことがなくたくさんの学びを得られている。」また調査を受けるろう者は「話したいことがいっぱいあるんや」と抑圧していた思いが爆発的に吐き出される機会になっており、双方にとっても調査の意義は大きく積極的に調査を進めています。

兵庫県など行政からも調査の結果が期待されており、聴覚障害者のみでなく、インクルーシブな社会、支援サービス、制度の拡充に役立てる調査にしていきたいものです。（辻）

伝える気持ちを学んで　手話奉仕員養成講座

5月から始まった講座は、家族、趣味などの学習が終わり、皆さん自己紹介が、できるようになりました。そこで、手話を始めようとしたきっかけや感想を伺いました。

「想像以上に手話での会話は難しいですが、表現の意味も同時に教えて下さるので分かりやすいです」

「仕事上、知り合った聴覚障害者の方にもっと安心してご利用いただける窓口担当になりたい。独学で単語は学んでいましたが、会話しないと上達しないと思い、受講することにしました」

「手話を使って通訳などできたら理想的ですが、手話を通じてろう者の（手話を第一言語とする人）文化を学びたいです」

「ドラマを見たのがきっかけですが、手話で会話ができることが素晴らしいと思ったので受講しました」

各会場では、顔なじみの方ができ、雰囲気も和らいできました。1年間、ともに学ぶなかまと、地域に暮らす聞こえない方の暮らしを知り、理解を深められる講座にしていきたいです。（竹内）

お知らせ

○7月18（木）10:30～17:00
巡回相談：南あわじ市南淡地区
午前：南淡公民館　午後：家庭訪問

○7月21（日）10:30～15:00
ミニ交流会（難聴者対象）場所南あわじ市

○8月12日（月）10:00～15:00
社会生活教室（ろう者）場所　健康福祉館
「悪徳業者のねらいはあなたかも」

お問合わせはセンターまで

続・地域を語る

第55号 中川原村立
中川原中学校の設立

中川原村立国民学校は昭和二十二年四月一日よりの学校教育法により中川原村立中川原小学校と改称され、同日中川原村立中川原中学校が設置され、従来の高等科が併合されたもので、三ヵ年課程の義務教育である。

当分の間小学校に併置され、学校長は小学校長の兼任で職員は七名、生徒数は一二三名であった。

翌二十三年九月二十八日小学校の南隣りに木造平家建五教室一五〇坪の新校舎が落成したもので、昭和二十四年四月に初代専任校長として田中義剛氏が補せられた。

これによってかねてよりの懸案である新制中学校の独立校舎の新築をすることになり、昭和二十六年三月、元鐘紡蚕種製造所で、当時堀抜製帽会社養兎場であった現校地を買収ありて、同年五月に地鎮祭を行い、木造二階建八教室を総工費五百万円を投じて十二月十五日落成ありて、移転されたもので、昭和三十年三月三十一日町村合併で、洲本市に合併あり洲本市中川原中学校となったもので、同年四月に学校長の移動があり宮本一郎氏が就任あり現在に至っている。

昭和二十九年度卒業生で八回を数え、卒業生の数は三二九名(内男一九〇名、女一三九名)である

尚昭和二十五年五月に中学校卒業後の女子の希望者に、和洋裁、茶華道、調理を修得させる目的で、研究科一ヵ年、本科二ヵ年の課程の中川原女学院を創立して、中学校に併置して中学校長が兼任であった。昭和三十年三月迄に研究科九名、本科二七名の卒業生を出している。

同年四月からは洲本市立となり院長は中川原公民館長武田敏夫氏が就任して現在に及んでいる。

中川原村立中川原小学校の地番は昭和二十五年五月十一日大字名の変更により中川原村中川原九八八番地と改称さる。

かねてより北校舎の改築が昭和三十年に着手あり、二階建十教室(坪七四〇万円)は同年七月三十日洲本市によって改築竣工式が挙行された。

※中川原村史より

元気な地域の子どもたちと
中川原小学校運動会

6月8日（土）に中川原小学校の運動会が開かれました。

当日は天候に恵まれ、たくさんの入居者が参加されました。午前中はテントの下で見学をしました。子ども達がダンスやかけっこをする姿を目を細くして見られ、応援されていました。また、綱引きの時はかけ声と共にテントの下で綱を引く動きをまねしたり、リレーの時は両手を振って一緒に走っているかのように楽しまれている入居者もいました。

午後からは玉入れに参加しました。皆さん、童心を思い出し、無我夢中でカゴに向けて玉を投げていました。小学生の子ども達が一生懸命に玉を拾いおじいちゃんおばあちゃんに渡してくれました。

気温が高く体調の心配もありましたが、みなさん子ども達に元気をもらい運動会を楽しんでふくろうに帰ってくることができました。前日からのテント設営など、毎年参加のお骨折りをいただいている地域交流会の皆様、ありがとうございました。

また来年も子ども達との交流を楽しみです。

（生活支援係…谷口愛）

入所者の島まつり参加への ボランティアを募っています。

島まつりのおどりと花火の時のボランティアを募集します。ご都合のつく方はふくろうの郷まで連絡をお願いします。

TEL 0799-25-8550/FAX 0799-25-8551

と　き　　8月3日（土）18:00～　阿波踊り
8月4日（日）　　花火

時間が決まりしだい、改めて連絡します。
この８年間の参加を支えてくださっているのが地域交流会です。同会へは別途ご案内差し上げます。

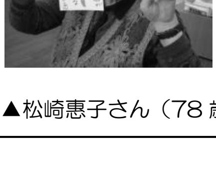
看護職員募集

いっしょに働きませんか!!

募集資格　看護師(准看可)
普通車自動車運転免許
給　　与　199,100円～（常勤）
1,350円/時間～（非常勤・ﾊﾟｰﾄ）
*学歴、経験等により変動があります。
労働時間　8時30分～17時30分（常勤）
非常勤の方はご相談に応じます。
連 絡 先　特別養護老人ホーム淡路ふくろうの郷
TEL 0799-25-8550/FAX 0799-25-8551
（総務/中村、橋詰）

作品紹介

ふくろう大学 絵手紙講座 6月18日



▲松崎惠子さん（78歳）の作品

▼左から鬼塚さん、浪速さん

絵手紙講座の講師として来ていただいています。